

作成日：2016年6月30日

改訂日：2022年10月21日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : ソーダ石灰
パーツNo. : HSG363011
会社名 : 株式会社HIRANUMA
住 所 : 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1739
担当部門 : 品質保証部
電話番号 : (0120)47-6411 FAX番号 : (029)240-0381

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性 : 区分2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

: 区分1

特定標的臓器毒性・単回ばく露

: 区分1 (呼吸器系)

特定標的臓器毒性・反復ばく露

: 区分1 (呼吸器系)

絵表示またはシンボル



注意語喚起 : 危険

危険有害性情報 : 皮膚刺激
重篤な眼の損傷
呼吸器系の障害
長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器系の障害

注意書き

安全対策 : 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸引しない。
取扱い後はよく手を洗う。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
適切な保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用する。

応急措置

皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹼で洗う。

- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
- 暴露または暴露の懸念がある場合 : 直ちに医師に連絡する。
- 皮膚刺激が生じた場合 : 医師の診断、手当を受ける。
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする。
- 保管 : 施錠して保管する。
- 廃棄 : 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に依頼して廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物

成分名	濃度 (%)	官報公示整理番号		CAS RN
		化審法番号	安衛法番号	
水酸化カルシウム	81	1-181	公表化学物質	1305-62-0
水酸化カリウム	2	1-369	公表化学物質	1310-58-3
水酸化ナトリウム	1	1-410	公表化学物質	1310-73-2
バインダー	1	登録済み	公表化学物質	非公開
水	15	該当なし	該当なし	7732-18-5

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢
で休息させる。気分が悪い時は、診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐ。
皮膚を速やかに洗浄する。多量の水と石鹼で洗う。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合 : 直ちに医師に連絡する。
水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。気分が
悪い時は、医師の手当て、診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐ。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける。
- 医師、及び応急処置をする者に対する特別な注意事項 : 救護者が有害物質に接触しないよう手袋やゴーグルなどの保
護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水
大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
- 使ってはならない消火剤 : 特になし
- 火災時の特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
加熱により容器が爆発する恐れがある。
- 特有の消化方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器内に水を入れてはいけない。
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消化を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所は喚起する。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
環境中に放出してはならない。
- 封じ込め、浄化の方法及び機材
- 回収、中和 : 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法、機材

- 二次災害の防止策
- : 危険でなければ漏れを止める。
 - : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
 - 排水口、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 - 容器内に水を入れてはいけない。
 - 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 - 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項
- : 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 - 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行う。
 - 屋外又は換気の良い区域でのみ使用する。
 - 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避
- : 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 衛生対策
- : この製品を使用するとき、飲食または喫煙をしないこと。
 - 取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

- 技術的対策
- : 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 保管条件
- : 部外者が触れないような措置をし、施錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料
- : 耐アルカリ性容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度
- : 設定されていない。
- 許容濃度
- 日本産業衛生学会
- : 設定されていない。
- ACGIH
- : TLV-TWA 5mg/m³（水酸化カルシウムとして）
- 設備対策
- : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
 - 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用する。
- 手の保護具 : 適切な保護手袋（ケミカルグローブ）を着用する。
- 眼の保護具 : 適切な眼の保護具を着用する。
化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用する。
安全眼鏡を着用する。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣（体の露出部分が少ない長そで作業服など）を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態 : 固体（粒状）
- 色 : 白色
- 臭い : データなし
- 融点／凝固点 : データなし
- 沸点又は初留点及び沸騰範囲 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界および爆発上限界／可燃限界 : 該当しない
- 引火点 : データなし
- 自然発火点 : 該当しない
- 分解温度 : データなし
- pH : 水溶液は強アルカリ性
- 動粘性率 : 該当しない
- 溶解度 : データなし
- n-オクタノール/水分配係数(log値) : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 密度及び／又は相対密度 : データなし
- 相対ガス密度 : 該当しない
- 粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
- 化学的安定性 : 大気中で炭酸ガスを吸収し、炭酸カルシウムとなる。
加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。
- 危険有害反応可能性 : 酸類と反応し発熱する。
強酸化剤と反応する。

- 水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性／爆発性のガス(水素)を生成する。
- 避けるべき条件 : 空気との接触。加熱。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、酸類、金属(水の存在下)。
- 危険有害な分解生成物 : 酸化カルシウム

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口：主成分である水酸化カルシウムは、ラットのLD50値として、7.340 mg/kgとの報告¹⁾に基づき、区分に該当しないとした。
- 経皮：データなし
- 吸入(ガス)：GHSの定義における固体である。
- 吸入(蒸気)：GHSの定義における固体である。
- 吸入(粉塵・ミスト)：データなし
- 皮膚腐食性／刺激性 : 主成分である水酸化カルシウムは、強塩基性物質 (pH10.9-11.9¹⁾) であり、身体表面に中程度の腐食または刺激作用を持つとの記載がある¹⁾。また、本物質は人の皮膚に対して中程度の刺激性を示すとの記載¹⁾や、軽度の刺激性を示す¹⁾との記載がある。以上の情報から、本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中程度又は軽度」との記載から、区分2とした。
- 眼に対する重篤な損傷性／刺激性 : 主成分である水酸化カルシウムは、強塩基性物質 (pH10.9-11.9¹⁾) であり、身体表面に中程度の腐食または刺激作用を持つとの記載がある¹⁾。また、本物質は眼に対して腐食性を示すとの報告¹⁾や、非可逆的な損傷を与える¹⁾との記載がある。以上の結果から、区分1とした。
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データなし
- 生殖細胞変異原性 : データなし
- 発がん性 : データなし
- 生殖毒性 : データなし
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 主成分である水酸化カルシウムのデータは限られているが、人に気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある¹⁾。実験動物のデータはない。
- 以上より、人の気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載があることから、区分1(呼吸器)とした。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ヒトについては、水酸化カリウムの粉じん、ミストの吸入に

よって起こる障害は、主に上部気道の炎症であり、慢性的な作用によって鼻中隔に潰瘍を生じることが注意されている。ただし、気中濃度と障害発生に関する調査・研究の報告はない¹⁾。粉じんあるいはミストのばく露によって、おそらく眼および気道の刺激、鼻中隔の病変を生じる¹⁾。水酸化カリウムは、アルカリ性物質であり吸入により呼吸器に炎症性の影響を起こすことは明白であることから区分1(呼吸器)となる。したがって、本製品の水酸化カリウム配合率が2%であることから、区分1(呼吸器)とした。

誤えん有害性 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期 (急性)

: データなし

水生環境有害性 長期 (慢性)

: データなし

残留性・分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 : 該当しない

品名 : 該当しない

国連分類	: 該当しない
容器等級	: 該当しない
海洋汚染物質	: 該当しない
海上規制情報	: IMOの規定に従う
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う
陸上規制情報	: ADR/RIDの規定に従う
MARPOL73/78附属書ⅡおよびIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	: 該当する (Z類 水酸化カルシウム)
国内規制	
海上規制情報	: 海洋汚染防止法に従う
航空規制情報	: 該当しない
陸上規制情報	: 該当しない
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。 他の危険物のそばに積載しない。
国内規制	: なし

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき有害物(法第57条、施行例第18条別表第9) 政令番号 第317号 (水酸化カルシウム) 政令番号 第316号 (水酸化カリウム) 政令番号 第319号 (水酸化ナトリウム) 名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行例第18条の2別表第9) 政令番号 第317号 (水酸化カルシウム) 政令番号 第316号 (水酸化カリウム) 政令番号 第319号 (水酸化ナトリウム) リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3) 政令番号 第317号 (水酸化カルシウム) 政令番号 第316号 (水酸化カリウム) 政令番号 第319号 (水酸化ナトリウム)
PRTR法	: 該当しない
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 該当しない
航空法	: 該当しない
港則法	: 該当しない
消防法	: 該当しない
海洋汚染防止法	: 施行令別表第1有害液体物質Z類 (75 水酸化カルシウム)

16. その他の情報

参考資料

- 1) 社内資料(製造メーカー発行のSDS)
- 2) 製品評価技術基盤機構のHP
- 3) 安全衛生情報センターのHP

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の実用を前提としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253に基づいて作成しております。